

こころ育てる絵本との出会い

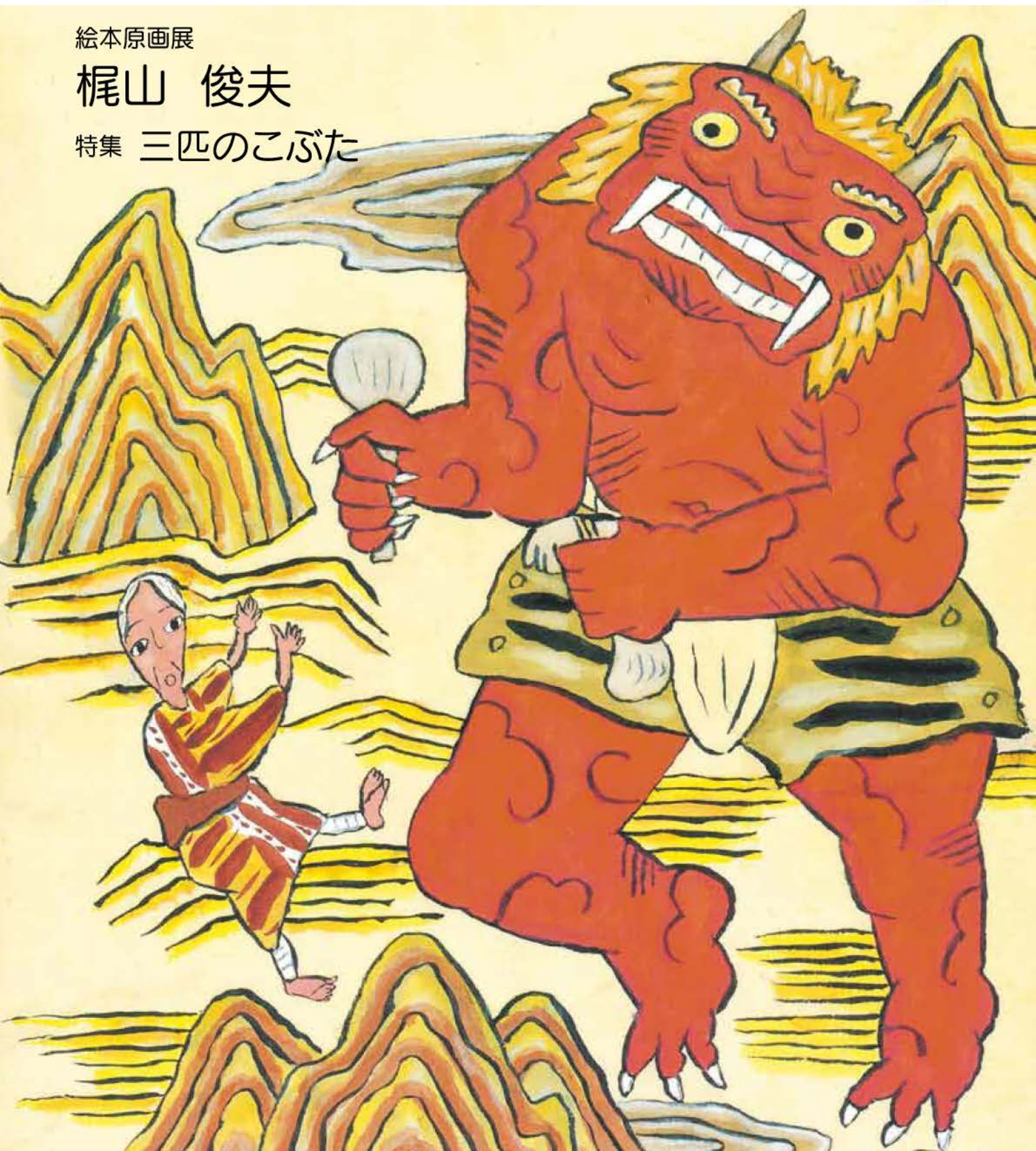
マクちゃん通信

2012 12 - 2013 1 vol. **17**

絵本原画展

梶山 俊夫

特集 三匹のこぶた



かじ やま とし お
梶山 俊夫



梶山 俊夫(かじやま としお)プロフィール

1935年東京亀戸生まれ。抽象画家として出発し、1962年シェル美術賞受賞。1967年に初めて絵本の仕事に取り組む。以来、日本の自然や風土、民話を題材に絵本を描き続ける。『かぜのおまつり』『みんなであそぶわらべうた』(ともに福音館書店)でブラチスラバ世界絵本原画ビエンナーレ「金のりんご賞」受賞、『いちにちにへんとおるバス』(ひかりのくに)で講談社出版文化賞、『あほろくの川だいこ』(ポプラ社)で小学館絵画賞、『こんこんさまにさしあげそうろう』(PHP研究所)で絵本にっぽん大賞など数々の賞を受賞。

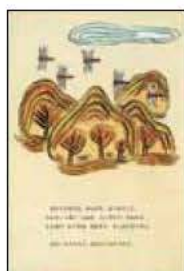
のびやかな線と温かな色合いで
描かれる民話の世界
絵本のリズムから生まれる制作への志
素直な思いの絵本を描いていきたい。

絵本原画展開催

平成24年12月1日(土)～平成25年1月27日(日)



『やんすけと
やんすけとやんすけと』
(ミキハウス)



『だんだんこころころ』
(福音館書店)



原画
展示
絵本

冬のギャラリーでは、日本の民話『だだごころころ』、『やんすけとやんすけとやんすけと』をご紹介します。

梶山 俊夫先生に インタビュー



絵本作家になられたきっかけは？

平安時代の絵巻物『鳥獣戯画』をもとにした絵本をつくる手伝いをしたのですが、実物を見て強い感動を受けました。絵の中にすーっと入り込んでいくような、もしかしたら自分が描いたんじゃないかというような作家との時空を超えた交流のようなものを感じました。そこから絵本という世界に完全にのめりこみました。

画材は何を使っていらしゃいますか？
墨、手すき和紙に顔彩です。

今回、絵本原画展を行う絵本の制作秘話や
思い出を教えてください。

『だだごころころ』は、赤とんぼのからだが真つ赤になっていく話です。鬼との出会いから見事にスリルにとんだ話になります。楽しいこと、びっくりすることやら驚くやら、合わせて筆が躍っていき、力が入りました。

『やんすけとやんすけとやんすけと』は、ごんさんが助けてあげたきつねの話です。そのお礼にきつねからいただいたつばから、なんとでてくるわ、生まれてく

るわ……。そしてお母さんを助ける話です。制作しながらびっくりするやら楽しいやらでした。

絵本をお作りになるときのこだわりは？

どんなテーマのものでも、物語と自分との関わりが大切だと思っています。物語に正直に自分自身の心を向けなければ、読み手の子どもに満足してもらえない。一度読んだらそれで終わりになってしまふ。子どもに好かれそうな絵を面白く上手に描けば良いというものではないんですよ。

また、日本の自然や風土、民話をテーマにすることが多いですね。子どもの頃に体験した田舎での生活や出会った仲間たちのこと、各地を旅したことが大きく影響していると思います。



『みんなであそぶわらべうた』
(福音館書店)

今まで手がけられた絵本の中で、一番印象深い絵本を教えてください。

その印象深さの姿は色々で、その色々が、制作へのリズムを生んでいます。

絵本を通じてお伝えになりたいことは？

絵本のリズムから制作の志が生まれてきます。

今後どのような絵本を描いていかれますか？

はっと思いつながら素直な正直な思いの絵本を描いていきたいです。

好きな言葉を教えてください。

ふと生まれてくるわが言葉です。

ファンの皆さんへメッセージをお願いします。

絵本の中でお互いにふと語り合えることでしょう。

梶山 俊夫先生、ありがとうございました！

梶山 俊夫先生サイン入りの 絵本を3名様にプレゼント

応募方法 氏名、年齢、住所、電話番号をご明記のうえ、
ハガキでご応募ください。
〒939-0283 射水市鳥取50 射水市大島絵本館
あて先 梶山 俊夫サイン本プレゼント係
締め切り 平成25年1月10日 消印有効

※発表は発送をもって代えさせていただきます。



『やんすけとやんすけとやんすけと』
(ミキハウス)





田中 祥子
射水市大島絵本館 主任指導員

特集 / 三匹のこぶた

読みくらべて面白い！ 『三匹のこぶた』

世界中で親しまれているイギリスの昔話『三匹のこぶた』。先日当館に所蔵している17冊の『三匹のこぶた』を読んでみました。それぞれ文体や絵に個性はあってもストーリー展開は殆ど同じだろうと思っていたのですが、大きく分けて2種類の結末があったのです。

その内の10冊では、オオカミは、わらの家も木の枝の家も吹き飛ばし、一番目のこぶたも二番目のこぶたも「食べてしまう」のです。一番目と二番目のこぶたが三番目のこぶたの家に逃げ込んで、三匹力を合わせてオオカミをやっつけ、揃って幸せに暮らすというお話だと思っていた私には、衝撃的過ぎるお話でした。

続きはこうです。煉瓦の家に住む三番目のこぶたも食べてやろうとオオカミは次々と策を弄します。美味しいカブ畑や、リンゴ畑、丘の上の店に誘い出そうとします。が、ことごとく失敗。こぶたは知恵を働かせ、オオカミとの約束を巧みにかわします。いよいよ怒ったオオカミは煙突から家に入って…というものでした。

これが、ジョゼフ・ジェイコブズが『イギリス民話集』に収めた『三匹のこぶた』だ

そうです。昔話絵本には、残酷な部分はカット、変更して表現を変えているものが多くあります。『三匹のこぶた』にも同様の配慮がなされているのでしょうか。

どちらの『三匹のこぶた』からも「勤勉さ、一生懸命さは報われる」等の教訓が読み取れます。それに加え、既知の物語からは「兄弟仲良く助け合おう」というメッセージを感じます。それに対し、本来の物語からは「世の中は厳しい。知恵を働かせなければ生き抜けない」という強いメッセージが伝わってきます。

わが子にはどちらを読もうかとお悩みの方がいらしたら、お子さんを一番よく知るあなたが、お子さんの心の発達や好みに合うものを選んであげてください。そしてその一冊だけで済ませるのではなく、成長や好みの変化に合わせて、別の昔話絵本も読んであげてほしいと思います。

『三匹のこぶた』だけでなく、絵本館には同じタイトルの昔話は何冊も並んでいます。沢山の絵本を読みくらべられるなんて、とても豊かで楽しいことだと思いませんか？ぜひ皆さんも読みくらべて、昔話の奥深さに更に迫ってみてください。

私のおすすめ絵本

『3びきのこぶた』

いもとようこ／文
絵（金の星社）

ソフトな内容を温かく優しい絵で描いている。物語の世界を楽しむ始めたばかりの幼いお子さんにおすすめ。



『3びきのこぶた』

ポール・ガルドン／絵
晴海耕平／訳（童話館）

私が一番読みやすいと感じた絵本。同じ話でも訳者や画家によって異なる味わいを楽しめるのも昔話の醍醐味。



『3びきのこぶた』

瀬田貞二／訳 山田三郎／画
（福音館書店）

名前を日本風に変えている部分もあるが、原作を忠実に絵本化。味わい深い絵も魅力のロングセラー。



『3びきのこぶた』

森毅／文 安野光雅／絵
（童話屋）

こぶたの捕まえ方を数学で解き明かす。順列と組合せの基本的な考えを美しい絵で学べる絵本。



『3びきのかわいいオオカミ』

ユーージン・トリビザス／文 ヘレン・オクセンバリー／絵
こだまともこ／訳（富山房）

オオカミとこぶたの立場が逆に。悪いおおぶたから命からがら逃げ出したオオカミたちが作った家とは。



『三匹のぶたの話』

黒田愛／作
（白泉社）

独自の視点で描いた『三匹のこぶた』。ユニークなストーリー展開と圧倒的迫力の絵柄は必見。



『3びきのコブタのほんとうの話』

ジョン・ジェスカ／聞き手 レイン・スミス／絵
いくしまさちこ／訳（岩波書店）

名作や昔話にはパロディも多い。オオカミは本当に悪者？オオカミの言い分も聞いてほしい。